

平成30年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

決算審査意見書概要説明

令和元年9月

三重県監査委員

# 平成 30 年度三重県公営企業会計（病院事業庁）

## 決算審査意見書概要説明

### 第 1 審査の概要

審査の対象は、病院事業庁が経営する平成 30 年度の三重県病院事業会計です。

決算の審査は、知事から提出された決算書類の内容について、

- ① 決算の計数は正確であるか
- ② 決算諸表は、経営成績及び財政状態を適正に表示しているか
- ③ 予算は、計画的かつ効率的に執行されているか
- ④ 事業経営は、常に経済性の発揮及び公共の福祉を増進するよう運営されているか

などを重点に、会計諸帳票、証拠書類との照合精査を行うとともに、必要な資料の提出を求め、関係当局の説明を聴取し、併せて定期監査、例月出納検査等の結果を参考に、慎重に審査を行いました。

### 第 2 審査の結果及び意見

#### 1 審査の結果

病院事業の決算諸表は、地方公営企業法及び関係法令に則り、病院事業庁会計規程に基づいて作成されており、その計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められます。

また、事業の経営については、以下の意見のとおり留意又は改善を要するものを除き、概ね適正に処理されているものと認められます。

(以下、この概要説明においては、金額は万円未満を切り捨てています。)

## 2 審査の意見

### (1) 平成 30 年度決算と中期経営計画に基づく病院事業の運営について

平成 30 年度病院事業会計の経常損益及び純損益は、いずれも 7,533 万円の赤字となり、29 年度決算に比べ 1 億 545 万円悪化しています。これは、経常損益では平成 25 年度以来 5 年ぶり、純損益では 26 年度以来 4 年ぶりの赤字であり、「三重県病院事業 中期経営計画（改定版）（平成 29 年度～平成 32 年度）」（以下「中期経営計画」という。）における 30 年度の収支計画を 6,151 万円下回っています。

さらに、依然として、92 億円の当年度未処理欠損金（累積欠損金）もあり、厳しい経営状況にあることから、医業収益の増加を図るなど、経営の健全化に努めていただきたい。

また、中期経営計画に基づき、各年度における成果目標等の進捗管理を行っていますが、目標未達成の項目が多くありますので、各病院がそれぞれの役割・機能を十分に発揮できるよう、引き続き、計画の着実な推進を図っていただきたい。

なお、平成 30 年度の各病院の収支状況及び留意事項については、次のとおりです。

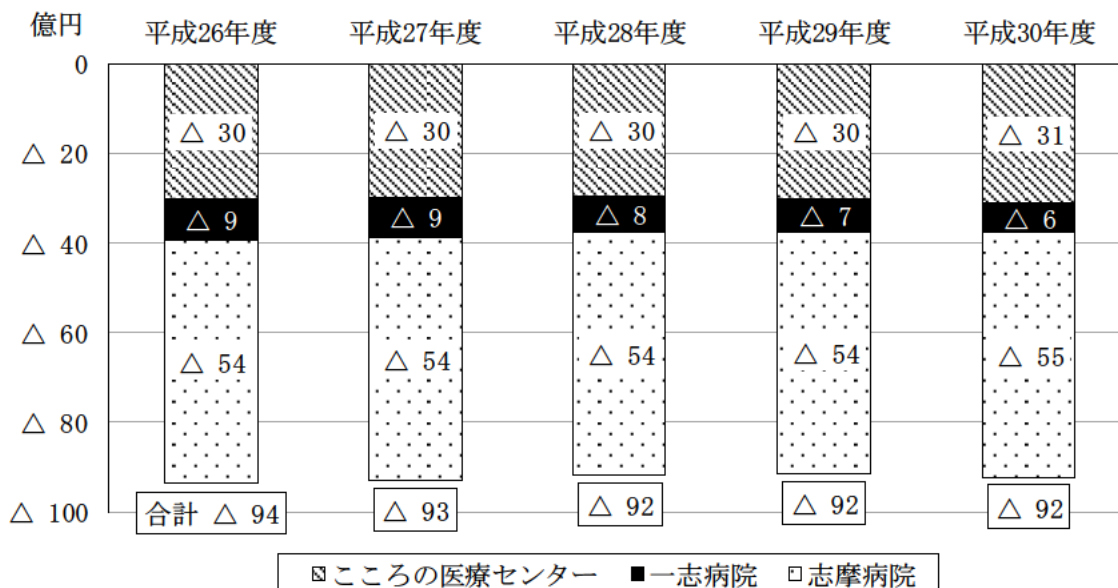
#### 収益的収支の状況

（単位：千円）

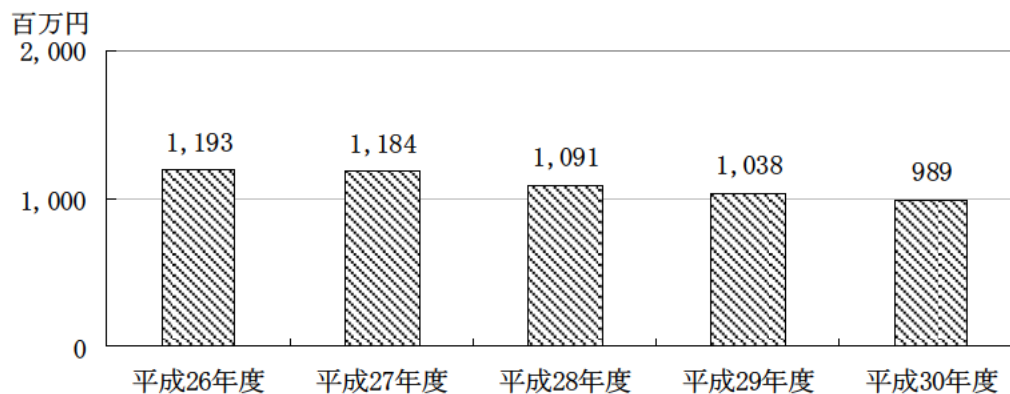
病院名等	区 分	平成30年度	平成29年度	比較増減	中期経営計画 平成30年度 収支計画
こころの医療 センター	医業損益	△ 1,014,100	△ 972,826	△ 41,274	△ 813,413
	経常損益	△ 94,137	△ 74,558	△ 19,579	42,044
	純 損 益	△ 94,137	△ 74,558	△ 19,579	42,044
一志病院	医業損益	△ 239,823	△ 241,869	2,046	△ 316,500
	経常損益	82,730	91,345	△ 8,615	9,610
	純 損 益	82,730	91,345	△ 8,615	9,610
志摩病院	医業損益	△ 912,249	△ 977,076	64,827	△ 820,230
	経常損益	△ 63,926	13,332	△ 77,258	△ 65,478
	純 損 益	△ 63,926	13,332	△ 77,258	△ 65,478
県立病院課	医業損益	△ 105,055	△ 100,363	△ 4,691	△ 103,225
合計	医業損益	△ 2,271,227	△ 2,292,135	20,908	△ 2,053,368
	経常損益	△ 75,334	30,119	△ 105,452	△ 13,824
	純 損 益	△ 75,334	30,119	△ 105,452	△ 13,824

- (注) 1 医業損益は、医業収益から医業費用を差し引いたもの。経常損益は、医業損益に医業外収益を加えて医業外費用を差し引いたもの。純損益は、経常損益に特別利益を加えて特別損失を差し引いたもの。なお、志摩病院は指定管理者の収支を含んでいない。
- 2 四捨五入のため、合計等が合わない場合がある。

### 各年度未処理欠損金（累積欠損金）の推移



### 内部留保資金の推移



- (注) 内部留保資金  
現金預金及び1年以内に資金の収入が見込まれる流動資産（貸倒引当金を除く）から、1年以内に資金の支出が見込まれる流動負債（企業債・引当金を除く）を差し引いたもので、資金繰りの状況を示す数値。

## ア こころの医療センター

経常損益、純損益とも 9,413 万円の赤字となり、前年度に比べいずれも 1,957 万円悪化し、2 年連続の赤字となっています。また、これは、中期経営計画における平成 30 年度の収支計画を 1 億 3,618 万円下回るものです。

平成 30 年度から進めている経営改善プロジェクトの取組により、入院収益の増加など一部で改善も見られるものの、さらに新規入院患者の確保やデイケアサービスの充実により外来患者の増加に繋げることで医業収益の増加に努めるとともに、経費等の医業費用の削減を行うなど、より一層、経営の健全化に取り組んでいただきたい。

さらに、今後も「入院医療中心から地域生活支援中心へ」という精神科医療の方向性を踏まえ、精神科医療の中核病院としての役割を担いながら、多様な医療ニーズに応じたきめ細かなサービスの提供に努めていただきたい。

## イ 一志病院

経常損益、純損益とも 8,272 万円の黒字となり、前年度に比べいずれも 861 万円減少しているものの、中期経営計画における平成 30 年度の収支計画を 7,312 万円上回っており、引き続き、健全な経営に努めていただきたい。

また、過疎化、高齢化が進み、住民の医療ニーズがより一層高まっている中、幅広い臨床能力を有する総合診療医の育成拠点施設としての役割を果たすとともに、総合診療医を中心としたプライマリ・ケアの実践に取り組むなど、引き続き、地域に最適な医療サービスの安定的な提供に努めていただきたい。

## ウ 志摩病院

志摩病院では、平成 24 年度に指定管理者制度を導入して以降、県と指定管理者の基本協定（平成 24 年度～令和 3 年度）に基づく病院運営を行い、7 年が経過しました。この間、稼働病床の段階的増床や内科系救急における 24 時間 365 日の受入体制などを実現していますが、外科系における救急受入体制の回復や一部診療科における常勤医師の配置が進んでおらず、さらに前年度と比べても常勤医師数が減少しています。

このような状況を踏まえ、指定管理者と十分な連携を図り、常勤医師の確保やさらなる救急受入体制の拡充など診療機能の充実強化に取り組むとともに、回復期機能も有する地域の中核病院としての役割を果たすよう努めていただきたい。

【参考】

1 指定管理者による志摩病院運営の収支（決算額）

（単位：百万円）

	平成30年度	平成29年度	比較増減	主な増減理由
I 事業収益	3,322	3,476	△ 154	
医業収益	3,242	3,399	△ 157	
入院診療収益	2,338	2,504	△ 166	○延べ患者数の減 △8,826人
外来診療収益	904	895	9	○診療報酬単価の増 ※延べ患者数：△1,930人
医業外収益	80	76	4	
II 事業外収益	577	571	6	
収益計 A	3,899	4,047	△ 148	
III 事業費用	4,050	4,112	△ 62	
うち給与費	2,238	2,232	6	
うち設備関係費	345	423	△ 78	○企業債償還金の減少に伴う負担金の減 △ 80百万円
IV 事業外費用	6	5	1	
費用計 B	4,056	4,117	△ 61	
経常利益(A-B)	△ 156	△ 69	△ 87	

（出典）三重県病院事業庁提出資料

（注）1 本表の金額は、消費税及び地方消費税を含む。

2 四捨五入のため、合計等が合わない場合がある。

2 志摩病院における政策的医療交付金、経営基盤強化交付金の推移

（単位：千円）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
政策的医療交付金 （指定管理料）	450,247	465,881	474,816	481,948	485,780	516,680	524,630
経営基盤強化交付金 （赤字補てん）	541,343	458,628	401,917	220,354	251,856	134,284	69,287
うち当年度分 （当初交付額）	541,343	434,851	382,408	184,137	94,859	0	0
うち前年度分 （追加交付額）	-	23,777	19,509	36,217	156,997	134,284	69,287
合 計	991,590	924,509	876,733	702,302	737,636	650,964	593,917

（注）1 経営基盤強化交付金（赤字補てん）は、指定管理者の決算確定後に経常損失額から当初交付額を差し引いた額を翌年度に追加交付しているため、当該年度の当初交付額と翌年度の追加交付額を合計した額が当該年度の赤字補てん額となる。

2 県と指定管理者の基本協定（平成24年度～令和3年度）では、「平成29年度以降において、当該経常損失が生じた場合は、甲（注：県）及び乙（注：指定管理者）が協議するもの」としている。

### 3 志摩病院における救急患者の受入体制

(令和元年5月現在)

	区分	月	火	水	木	金	土	日	祝
内科系	昼間 (8:30~17:00)	○	○	○	○	○	○	○	○
	準夜間 (17:00~22:30)	○	○	○	○	○	○	△	○
	深夜 (22:30~8:30)	○	○	○	○	○	○	△	○

※△は心肺停止患者及び在宅病診連携患者（看取り期の在宅患者）に限定して対応

外科系	昼間 (8:30~17:00)	○	○	○	○	○	○	○	○
	準夜間 (17:00~22:30)	○			○	○	△		
	深夜 (22:30~8:30)					△	△		

※△は隔週で対応

(出典) 三重県病院事業庁 令和元年5月 例月出納検査追加説明資料

(注) 基本協定では、「平成26年度以降の24時間365日体制の整備を目標とする。診療時間外の救急外来については、指定管理開始後3年を目指して内科系、外科系それぞれ1名の医師を配置し、診療体制の回復に努める。」としている。

### 4 常勤医師数の推移

診療科等	→ (単位:人)									
	県直営	指定管理								
	H24.3	H24.4	H25.4	H26.4	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4	
内科および救急・総合診療科	5	7	11	17	11	14	14	11	10	
外科	3	4	3	3	3	3	3	3	3	
整形外科	3	2	2	2	2	2	2	2	2	
脳神経外科	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
眼科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
小児科	0	0	1	1	1	1	1	1	0	
東洋医学・皮膚科	0	0	0	1	1	1	1	1	1	
泌尿器科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
精神科	3	3	3	3	2	2	2	2	2	
放射線科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
緩和ケア	2	2	0	0	0	0	0	0	0	
小計	20	22	24	30	23	26	26	24	22	
初期研修医	1	2	2	2	3	4	2	2	4	
合計	21	24	26	32	26	30	28	26	26	

(出典) 三重県病院事業庁提出資料

(注) 基本協定では、「小児科及び産婦人科の入院診療体制は、指定管理運営開始から3年後を目標に常勤医師の確保に努める。」「政策的医療をより充実させるため、常勤医師41名体制を目標とし、さらなる医師確保に努める。」としている。



## (2) 未収金の回収と発生防止について

平成30年度末における病院事業庁全体の診療費自己負担金の未収金（過年度収入未済額）は、前年度に比べ795万円減少し、6,821万円となっています。

未収金の回収については、電話督促、催告書等送付及び臨戸訪問を行い、回収困難案件については弁護士法人に回収委託を行うとともに、関係機関と連携した生活困窮者に対する経済的支援制度の申請支援などに取り組み、939万円を回収しています。引き続き、回収に向けての取組を進めていただきたい。

また、未収金の新規発生額は、前年度に比べ478万円減少したものの、377万円発生しているため、引き続き、未収金の発生防止に取り組んでいただきたい。

### 診療費自己負担金の過年度未収金

(単位：千円)

病 院 名	平成30年度末 (A)		平成29年度末 (B)		比較増減 (A)-(B)	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
こころの医療センター	301	50,051	320	53,708	△ 19	△ 3,657
一 志 病 院	17	669	21	1,044	△ 4	△ 375
志 摩 病 院	139	17,496	160	21,419	△ 21	△ 3,924
合 計	457	68,216	501	76,172	△ 44	△ 7,956

(注) 1 志摩病院分は、指定管理者による運営に移行する以前の未収金（平成24年3月31日までに発生したもの）であり、本庁（県立病院課）が所管している。

2 四捨五入のため、合計等が合わない場合がある。

### 未収金増減の内訳

(単位：千円)

病院名	平成30年度 (A)				平成29年度 (B)				比較増減 (A)-(B)			
	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)	新規発生 (a)	回収 (b)	不納欠損 (c)	計 (a-b-c)
こころの医療センター	3,671	5,507	1,821	△ 3,657	8,239	3,755	0	4,484	△ 4,568	1,752	1,821	△ 8,141
一志病院	100	475	0	△ 375	317	240	0	77	△ 217	235	0	△ 452
志摩病院	0	3,409	514	△ 3,924	0	3,712	1,507	△ 5,219	0	△ 303	△ 993	1,295
合 計	3,771	9,392	2,335	△ 7,956	8,556	7,708	1,507	△ 658	△ 4,785	1,684	829	△ 7,298

(注) 四捨五入のため、合計等が合わない場合がある。

### 第3 経営の概要

#### 1 事業の概況

病院事業は、病院事業庁が総合医療センター、こころの医療センター、一志病院及び志摩病院の4病院を運営してきましたが、平成24年4月からは、総合医療センターが地方独立行政法人に移行したことから3病院になったほか、志摩病院については指定管理者制度を導入しています。

3病院の許可病床数は、平成30年度末時点で計770床です。こころの医療センターは、許可病床数、稼働病床数ともに348床です。一志病院は、許可病床数は86床ですが、療養病床全40床が休床となっており、稼働病床数は一般病床46床です。志摩病院は、許可病床数が336床となっていますが、一般病床52床が休床となっており、稼働病床数は一般病床184床及び精神病床100床の合計284床となっています。

患者数の状況としましては、平成30年度の入院患者数は延べ187,016人(1日平均512人)で、前年度に比べ7,908人減少し、外来患者数は延べ149,912人(1日平均614人)で、前年度に比べ4,730人減少しています。

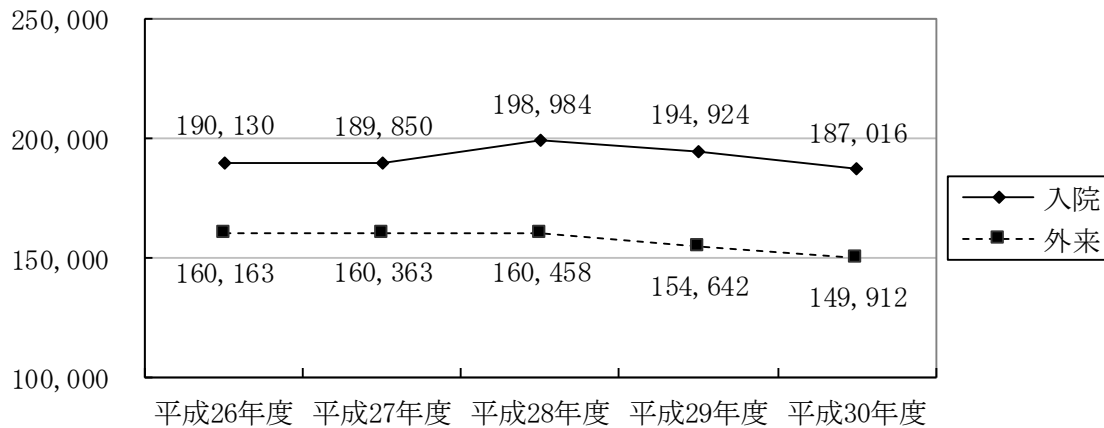
## 県立病院の概要

平成 31 年 3 月 31 日現在

病院名		こころの医療センター	一志病院	志摩病院
診療科目 (平成 30 年度 休診中のものを を除く)		精神科、内科、歯科 (内科・歯科は入院患 者のみ対応)	内科、外科、眼科	内科、循環器科、外科、 脳神経外科、小児科、 産婦人科、整形外科、 皮膚科、泌尿器科、 眼科、耳鼻いんこう科、 精神科、神経内科、 放射線科
許可 病床 数	一 般		46 (46)	236 (184)
	療 養		40 ( 0)	
	精 神	348 (348)		100 (100)
	計	348 (348)	86 (46)	336 (284)

(注) 許可病床数の ( ) は、稼働病床数

### 患者数の推移 (単位：人)



## 2 経営成績

平成30年度の総収益は52億1,869万円で、前年度に比べ1億1,782万円減少しています。これは主に、志摩病院の指定管理者負担金の減等による医業外収益の減によるものです。

総費用は52億9,403万円で、前年度に比べ1,237万円減少しています。これは主に、長期前払消費税償却の減等による医業外費用の減によるものです。

この結果、純損益は7,533万円の赤字となり、前年度に比べ1億545万円悪化しています。

### 病院事業の収益的収支

(単位：円)

科目	平成30年度 (A)	平成29年度 (B)	比較増減 (A)-(B)	比率 (A)/(B)
総収益	5,218,698,993	5,336,525,962	△ 117,826,969	97.8%
医業収益	2,796,754,084	2,765,971,910	30,782,174	101.1%
医業外収益	2,421,944,909	2,570,554,052	△ 148,609,143	94.2%
総費用	5,294,032,618	5,306,407,438	△ 12,374,820	99.8%
医業費用	5,067,980,892	5,058,106,411	9,874,481	100.2%
医業外費用	226,051,726	248,301,027	△ 22,249,301	91.0%
医業損益	△ 2,271,226,808	△ 2,292,134,501	20,907,693	-
経常損益	△ 75,333,625	30,118,524	△ 105,452,149	-
純損益	△ 75,333,625	30,118,524	△ 105,452,149	-

(注) 本表の金額は、消費税及び地方消費税を含んでいない。

### 3 一般会計繰入金の状況

平成30年度の収益的収入の繰入金は、19億9,764万円で、前年度に比べ6,944万円減少しています。これは主に、志摩病院の指定管理者に交付する経営基盤強化交付金に対する繰入金の減によるものです。

資本的収入の繰入金は、3億7,187万円で、前年度に比べ6,913万円減少しています。これは主に、志摩病院の一般病棟建設に係る企業債の償還終了による繰入金の減によるものです。

#### 一般会計繰入金の内訳

(単位：円)

病院名等	区分	平成30年度 (A)	平成29年度 (B)	比較増減 (A)-(B)	比率 (A)/(B)
こころの 医療センター	収益的収入	940,462,000	936,081,000	4,381,000	100.5%
	資本的収入	221,189,000	212,820,000	8,369,000	103.9%
	計	1,161,651,000	1,148,901,000	12,750,000	101.1%
一志病院	収益的収入	326,621,000	338,350,000	△ 11,729,000	96.5%
	資本的収入	13,038,000	12,184,000	854,000	107.0%
	計	339,659,000	350,534,000	△ 10,875,000	96.9%
志摩病院	収益的収入	625,840,000	690,989,000	△ 65,149,000	90.6%
	資本的収入	136,633,000	214,993,000	△ 78,360,000	63.6%
	計	762,473,000	905,982,000	△ 143,509,000	84.2%
県立病院課	収益的収入	104,726,000	101,676,000	3,050,000	103.0%
	資本的収入	1,013,000	1,013,000	0	100.0%
	計	105,739,000	102,689,000	3,050,000	103.0%
合計	収益的収入	1,997,649,000	2,067,096,000	△ 69,447,000	96.6%
	資本的収入	371,873,000	441,010,000	△ 69,137,000	84.3%
	計	2,369,522,000	2,508,106,000	△ 138,584,000	94.5%

(注) 1 収益的収入：病院運営に係る政策的医療及び不採算医療等に要する経費の繰入金

2 資本的収入：建設改良に要する経費の繰入金

## 第4 病院別の状況

### 1 こころの医療センター

#### (1) 患者数の状況

平成30年度の延べ入院患者数は100,216人(1日平均275人)で、前年度に比べ1,009人増加しています。延べ外来患者数は53,971人(1日平均221人)で、前年度に比べ2,856人減少しています。

(患者数の推移のグラフは15頁に掲載)

#### (2) 経営成績

平成30年度の総収益は31億6,011万円で、医業収益の増等により、前年度に比べ1,132万円増加しています。

総費用は32億5,425万円で、給与費の増等により、前年度に比べ3,090万円増加しています。

この結果、純損益は、前年度に比べ1,957万円悪化し、9,413万円の赤字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは16頁に掲載)

### 2 一志病院

#### (1) 患者数の状況

平成30年度の延べ入院患者数は14,353人(1日平均39人)で、前年度に比べ91人減少しています。延べ外来患者数は19,364人(1日平均79人)で、前年度に比べ56人増加しています。

(患者数の推移のグラフは15頁に掲載)

#### (2) 経営成績

平成30年度の総収益は10億1,934万円で、診療単価の増等により、前年度に比べ1,592万円増加しています。

総費用は9億3,661万円で、給与費の増等により、前年度に比べ2,454万円増加しています。

この結果、純損益は、前年度に比べ 861 万円減少し、8,272 万円の黒字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは 16 頁に掲載)

### 3 志摩病院

#### (1) 患者数の状況

平成 30 年度の延べ入院患者数は 72,447 人 (1 日平均 199 人) で、前年度に比べ 8,826 人減少しています。延べ外来患者数は 76,577 人 (1 日平均 314 人) で、前年度に比べ 1,930 人減少しています。

(患者数の推移のグラフは 15 頁に掲載)

#### (2) 経営成績

平成 30 年度の総収益は 9 億 3,360 万円で、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金に係る一般会計繰入金の減等により、前年度に比べ 1 億 4,821 万円減少しています。

総費用は 9 億 9,752 万円で、指定管理者に交付する経営基盤強化交付金の減等により、前年度に比べ 7,096 万円減少しています。

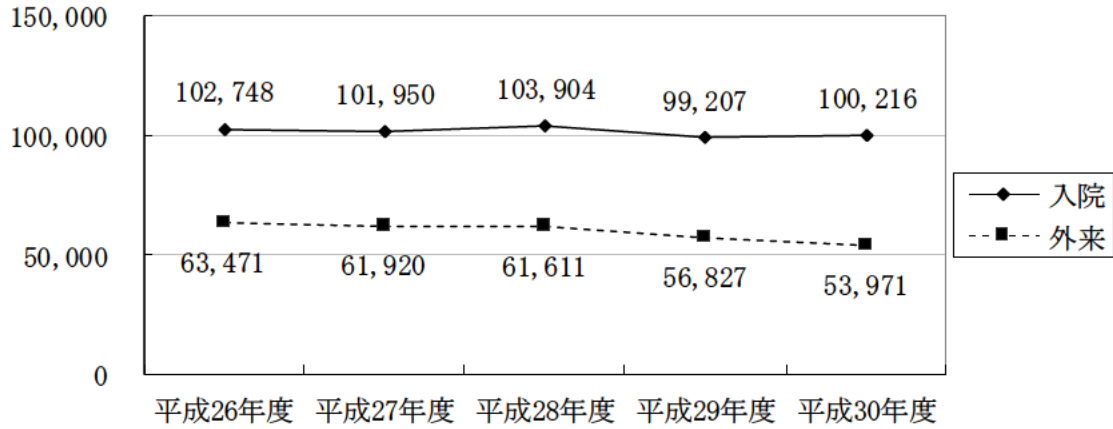
この結果、純損益は、前年度に比べ 7,725 万円悪化し、6,392 万円の赤字となっています。

(総収益と総費用の推移のグラフは 16 頁に掲載)

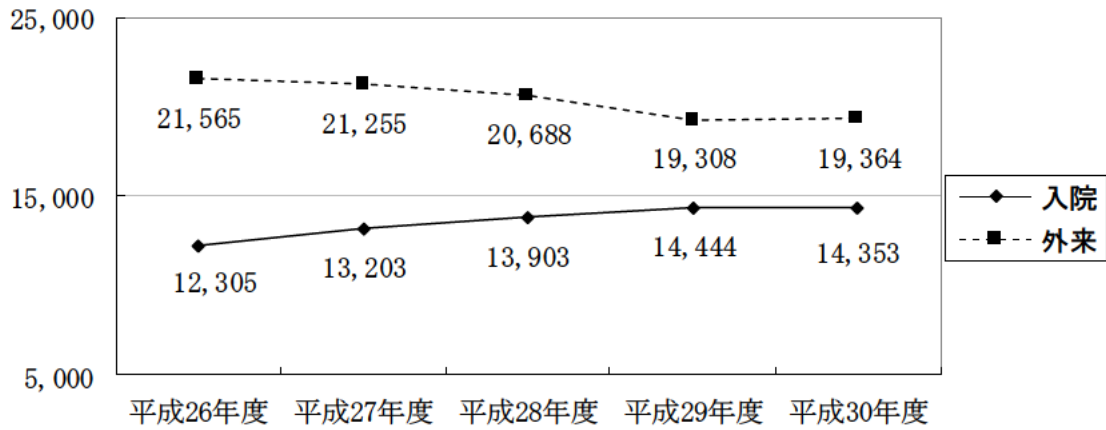
(参考)

### 患者数の推移 (単位：人)

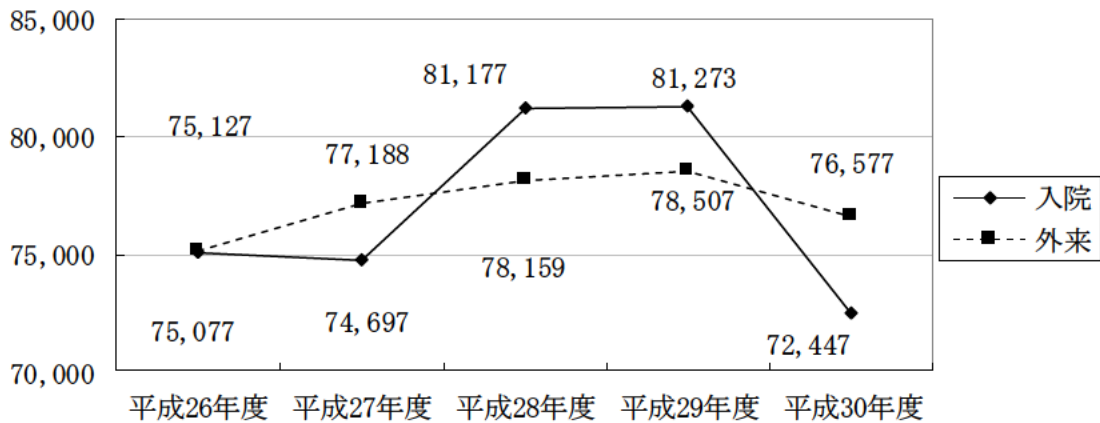
#### こころの医療センター



#### 一志病院



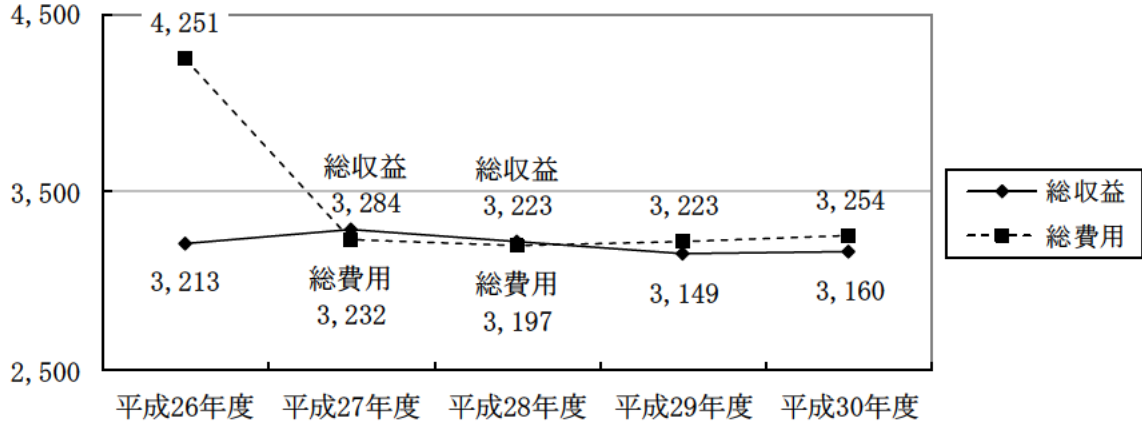
#### 志摩病院



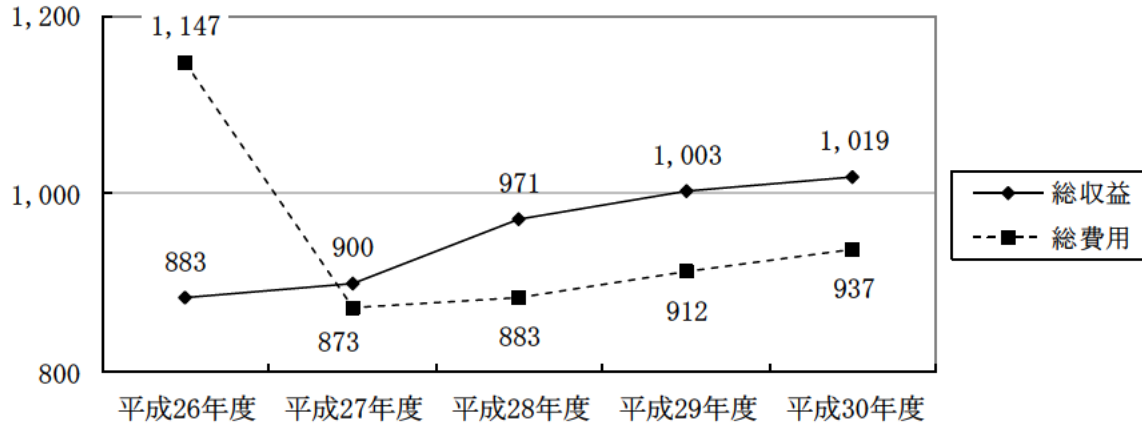


総収益と総費用の推移（単位：百万円）

こころの医療センター



一志病院



志摩病院

